［認知症対応型共同生活介護用］

1．評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078700145
法人名	有限会社　裕和
事業所名	グループホーム　陽だまり
所在地 (電話番号)	福岡県みやま市瀬高町下庄４８０－３ （電　話）　０９４４－６２－２２１０

評価機関名	財団法人　福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南２丁目９番３０号		
訪問調査日	平成22年1月15日	評価確定日	平成22年2月3日

【情報提供票より】（H21年12月25日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年5月1日		
ユニット数	1　ユニット	利用定員数計	9　人
職員数	13　人	常勤　人，非常勤　人，常勤換算　人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木　造	
	1　階建ての	1　階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	20,000　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有　（　円）		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有　（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	305　円	昼食	405　円
	夕食	455　円	おやつ	円
	または1日当たり	円		

(4) 利用者の概要　（12月25日現在）

利用者人数		9　名	男性　2　名	女性	7　名
要介護1		0　名	要介護2		3　名
要介護3		5　名	要介護4		1　名
要介護5		0　名	要支援2		0　名
年齢	平均	86.1　歳	最低	81　歳	最高　98　歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	植田医院、安野医院、新船小屋病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

H21年10月にホームが新築され、入居者と共に現地へ転居した。近くに幹線道路が走り、田園地帯が広がっている自然豊かなところである。ホーム内はバリアフリーとなり、玄関･居室･トイレ･食堂はゆったりとしたスペースが確保されている。管理者は、開設当時から「のんびり、ゆったり、その人らしく」という理念のもと認知症介護に熱心に取り組み、入居者、家族と共に温泉旅行等を楽しむ機会を提供している。地域の方々にグループホームを理解してもらおうと働きかけ、ボランティアを受け入れたり、ホームの畑に野菜を植えに来て貰う等、入居者が地域の人達と交流をする機会を確保し、徐々に付き合いが出来てきている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

①地域とのつき合い②評価の意義の理解と活用③家族への報告④職員を育てる取り組み⑤チームで作る利用者本位の介護計画⑥入浴を楽しむことができる支援が前回挙げられた改善項目であり、職員全員で改善出来るように話し合い、取り組んでいる。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価は管理者と職員で記入し、会議時に全員で話し合いながら取り組んでいる。職員は評価を実施する意義を理解しており、日頃のサービスを振り返り、改善する機会として捉えている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、区長、民生委員、老人会会長、元相談員、市職員、地域包括支援センター職員、入居者家族が参加している。地域の方に認知症について説明をした際に、参加者からホームに対して期待している意見が出るなど、活発に意見交換をしている。又、運営推進会議で評価について報告し、参加出来ないメンバーや家族に議事録を持参･郵送している。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法･運営への反映（関連項目：外部8，9）

面会時に意見や要望を出せる雰囲気作りに努めている。玄関に意見箱を設置しているが、投函がないため、無記名のアンケートも出すようにしている。又、家族会も設けられており定期的に開催されているが、ホームに対しての意見や要望はない。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

自治会に加入し、回覧板で地域の行事等の情報収集をしている。昨年ホームを移転したことで、新たな地域との関係作りを始めている。入居者と散歩する際は近隣の方と挨拶を交わし、ホーム周辺の道路掃除も入居者と共に行い、近隣の方にホームの畑に野菜を植えに来て貰う等して交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしさを保ちながら、日々の安心した暮らしが出来るように「のんびり、ゆったり、その人らしく」という理念を作り上げている。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や共同スペース等に掲示され、いつでも誰でもが見られるようにしている。理念に基づくサービスの徹底に努め、毎朝理念を唱和している。		
2．地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板で地域の行事等の情報収集に努めている。昨年ホームを移転したことで、新たな地域との関係作りを始めている。入居者と散歩する際は近隣の方と挨拶を交わし、ホーム周囲の道路掃除は入居者と共に行っている。又、近隣の方にホームの畑に野菜を植えに来て貰う等して交流を図っている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者と職員で記入し、会議時に全員で話し合いながら取り組んでいる。職員は、評価を実施する意義を理解しており、日頃のサービスを振り返り、改善する機会として捉えている。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、区長、民生委員、老人会会長、元相談員、市職員、地域包括支援センター職員、入居者家族が参加している。地域の方に認知症について説明をした際に、参加者からホームに対して期待している意見が出るなど、活発に意見交換をしている。又、運営推進会議で評価について報告し、参加出来ないメンバーや家族に議事録を持参・郵送している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所側から積極的に訪問し、市の担当職員に近況報告や課題等を相談・連絡している。		
7	10	**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	年に1回勉強会を開催している。現在、入居中の方が制度を活用しているが、地域権利擁護事業・成年後見制度のパンフレットを常備していないことや勉強会に職員全員が参加できないことで、制度についての情報・理解が不十分な点がある。	○	制度を必要な方に何時でも説明出来るようにホームにパンフレット等常備しておくことが望まれる。また、それらを活用し職員全員が制度について理解することを期待したい。
4．理念を実践するための体制					
8	14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の状況を連絡ノートに記載し、面会時に家族へ報告している。状況が変化した場合は、随時電話連絡等している。行事のお誘いは便りで伝え、又、年に2回発行している事業所だよりでは、暮らしぶりや行事予定・職員の移動等を掲載し報告している。		
9	15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を出せるような雰囲気作りに努めている。玄関に意見箱を設置しているが、投函がないため、家族に無記名のアンケートも出すようにしている。又、家族会も設けられており定期的に開催されているが、ホームに対して意見や要望は現在のところない。	○	家族の苦情や意見を運営に反映するように取り組みを継続していくことを期待したい。
10	18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、全職員が入居者に対応出来るように勤務を配慮している。職員の離職の際は、皆で連携し入居者に支障が無いようにしている。		
5．人材の育成と支援					
11	19	**○人権の尊重** 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、介護に対する熱意と高齢者を大切にする思いがある方を採用している。現在、16歳から72歳と幅広い年齢層を採用している。職員の資格取得等のため研修・講習がある場合は優先的に公休を取れる仕組みとなっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	**○人権教育・啓発活動** 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎朝、申し送り時に倫理綱領の冊子を読んだり、外部の人権研修にも参加したりしている。管理者は、日頃から職員に対し、入居者への態度や言葉使いを尊厳を持って接するように指導している。		
13	21	**○職員を育てる取り組み** 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、外部研修に積極的に参加している。GH協議会や認知症の研修である全国大会には、毎年参加している。今年度も3名参加する予定である。		
14	22	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH事業所と勉強会を開催する等、ネットワーク作りを計画中であり、サービスの質を向上させていく取り組みがある。GH協議会では、当番制で研修会を開催したり、交流を図る為に忘年会等が催されるなど、管理者と共に職員も参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	**○馴染みながらのサービス利用** 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の相談があれば、体験利用やホームに馴染めるように利用者・家族が泊まれる準備もしている。又、自宅を訪問する等して面談し、利用者や家族が納得した上でサービスが開始出来るようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や後片付け・洗濯物たたみ等は、入居者が出来る範囲で行って貰うようにしている。職員は、入居者から野菜を作る上で必要な肥料の種類や、裁縫・調理の方法を教えてもらい、日々支えあえるような関係を構築するよう努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
17	35	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、一人ひとりの要望や気づいたことを連絡ノートに記載し、お互いに情報を共有しながら本人の意向に沿った支援をしている。意向の把握が難しい場合には、言葉や表情等をくみ取り、入居者の視点に立った対応をしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	**○チームでつくる利用者本位の介護計画** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	管理者は介護支援専門員でもあり、介護計画を作成する為に入居者の要望を聞き、家族に電話や書面で確認している。アセスメントに関しては定期的に実施されていないことや職員の意見が反映されていないことがあり、チームで作る介護計画書とはなっていない。	○	定期的にアセスメントを実施し、職員や家族･関係者で、生活の課題やケアの在り方を検討することが望まれる。本人や家族の意向を考慮し、チーム全員で本人本位の介護計画書を作成する取り組みに期待したい。
19	39	**○現状に即した介護計画の見直し** 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は、日々の生活の中で入居者の様子を細かく記載している。管理者は介護支援専門員でもあり、定期的に見直しを行っているが、本人･家族･必要な関係者等で話し合いがなされず、現場の職員の意見も反映されていない介護計画書となっている。	○	定期的にカンファレンスを持ち、必要な関係者と話し合い意見を求め現状に即した新たな介護計画書を作成することを期待したい。
3．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	**○事業所の多機能性を活かした支援** 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員は、入居者の希望により病院受診や自宅訪問、買い物等への外出に同行している。又、入居者が、冠婚葬祭に出席するために喪服が必要な場合は、ホームからの貸し出しを行ったり送迎をする等、柔軟な対応をしている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	**○かかりつけ医の受診支援** 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診したり、入居者･家族の希望により協力医に変更する等して医療を継続している。日常の健康管理が充分に行われ、協力医との連携が取れている。入居者の状態に変化がある場合は、夜間でも往診してもらう等して支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは過去に看取りの経験があり、入居時に重度化あるいは終末期の場合のケアの在り方について家族に説明し、同意を得ている。本人や家族の希望があれば、ホームで支援出来るように家族･医療関係者と話し合いを重ね、方針を共有していくことに努めている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**					
23	52	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的に入居者のプライバシーに配慮し、職員は丁寧な言葉使いや個々の人権を尊重した接し方をしている。書類についても鍵のかかる書庫に保管し、個人情報の保護に取り組んでいる。		
24	54	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや行事等のスケジュールはあるが、無理強いせず、個々の入居者の希望に沿うようにしている。その日をどのように過ごすかは、一人ひとりのペースを大切にして入居者本位に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の要望を聞いて決め、近くのスーパーに買い物に出掛けている。入居者の状況に応じ食事の準備や片づけ等を職員と共に行い、同じテーブルを囲んでいる。食卓には、入居者が作った漬物が並ぶ等して楽しく食事をしている。		
26	59	**○入浴を楽しむことができる支援** 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則週3回であるが、入居者の希望に応じて毎日でも可能である。入浴しない日は、シャワー浴や足浴などを行い身体の清潔保持が出来るように支援している。不眠の入居者に対しては、気分転換も兼ねて夜間でも入浴が出来るよう支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の状態に応じ、ホーム周辺道路や自室の掃除、洗濯、洗濯物たたみ、犬の餌やり等役割を持ちながら生活活動を共同で行えるように支援している。ホームでは週に1回、習字教室が開かれ、入居者が真剣に取り組んでいる。その成果もあり家族宛の年賀状と暑中見舞いは入居者の自筆で送付している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、ホーム近隣の散歩や買い物などの外出支援を行っている。年に2回、市外の温泉の家族風呂を予約し、入居者･家族･職員で出掛け、楽しみの機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関の鍵はかけていない。入居者が無断で出かけた場合は、無理な引き止めはせず見守りや声かけで対応している。夜間は安全確保のため18時頃に施錠している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームが新築したことで、厨房や浴室はオール電化となり火災報知機やスプリンクラーが設置されている。消防訓練は年2回、日中と夜間を想定して行われ入居者や職員が参加している。緊急対応マニュアルや緊急連絡網も整備され、連絡網は事務室に掲示されている。職員は、火災や災害時の避難場所や対応手順を理解しており、地域住民へ協力の声かけを随時行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者は、管理栄養士の資格を有しており栄養バランス、カロリー等に配慮し献立を作成している。入居者の状態や嗜好に応じ、食べやすい形態に工夫した食事が提供されている。食事摂取量は把握し日誌に記録しているが、水分摂取量については、把握･記載がなされていない。	○	水分摂取不足や過剰摂取で、重大な疾患を招く恐れがあるため、食事摂取量だけではなく、高齢者に必要な一日の水分摂取量を確保することや個々の入居者に応じた水分摂取量を職員全員が把握することが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**					
32	**83**	**○居心地のよい共用空間づくり** 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、ﾄｲﾚ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新築のホームはバリアフリーとなり、玄関･居室･ﾄｲﾚ･食堂はゆったりとスペースが確保されている。共同スペースは、天窓から優しい採光が入り、大きなソファーでは、入居者同士が会話を楽しみゆっくりとくつろげるように工夫されている。		
33	**85**	**○居心地よく過ごせる居室の配慮** 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家族と相談しながら使いなれた家具や物が持ち込まれている。目印になるようにと、手作りの温かみのある物や家族からの絵画が居室の前に飾られている。		